

## PROGRAM NOTE

## メリー クリスマス！



クリスマスには、各教会でヘンデルの＜メサイア＞が演奏されます。そこで、今月は、中田羽後著『父の涙』をご紹介することにしました。この小冊子は、宗教音楽家中田羽後が、若い頃、父の中田重治監督との間に起こったエピソードを回想し、父を記念して会堂にパイプオルガンを献納するため書かれたものです。

不朽の名作＜メサイア（救世主）＞を作曲したジョージ・フレデリック・ヘンデルは、イギリスに帰化したドイツ人で、若い時に、当時、最も有名であったイタリア音楽をしっかりと身につけ、イギリスに乗り込んで来た時には、ハンサムで才気あふれ、社交的で、政治的で、周囲の人々の人気をひとりでさらったような存在でした。当然、生活は豪華で、態度は万事貴族的でした。晩年になってからは、歌手や奏者を人前で怒鳴りつけるような不遜な態度が目立つようになり、彼の名声は地に落ち、行き場を失ってしまいました。その時、彼を自邸にかくまってくれたのが友人ジェネンスでした。

ジェネンスは、文学者で、音楽家で、ヘンデルのためにも、いくつかの聖譚曲や歌劇の台本を書いていました。そこで、ジェネンスは、キリストは完全なる神の子であるにもかかわらず、人の罪故に完全に捨てられ、人の代わりに神の罰をうけて、全人類の救いの業を成就した、という聖書の主題を聖譚曲に仕上げヘンデルに与えました。それを読んだヘンデルは、過去の自分への深い反省がわきあがり、わずか23日間でこの大作を仕上げました。ある朝、召使いがそっと部屋をのぞくと、ヘンデルは一晩中仕事をしていたらしく、短い口ウソクのそばで、自分の書いた楽譜の上にうつぶせになり泣いているおり、その涙で滲んだ楽譜は、＜彼は侮られて人に捨てられる＞の言葉に付けたものでした。

「メサイア」は3部構成（予言と降誕・受難と勝利・復活と永遠の命）で、有名なハレルヤコーラスでは、天使たちがハレルヤ「神を賛美せよ」と歓喜の歌声をくりかえし、当時この初演に臨席した国王は、あまりの荘厳さに打たれ思わず起立されたといわれて、ハイドンも、この合唱をきいて「神の栄光あらわれり」と感激し、＜天地創造＞を作曲する決心をしたといわれています。

『父の涙』は、宗教音楽家中田羽後師が、荻窪栄光教会にパイプオルガンを献げたいという願いで資金集めのために書かれ、1969年に「中田重治記念オルガン」が献納されました。中田羽後師は1974年に召天されましたが、来年完成する新会堂には、再びオルガンは新たな装いで納められます。なお、中田羽後師の日本語訳による「メサイア」の公演は、今年で連続46回目を迎え、聴衆は千名に達しています。なお、淀橋教会のクリスマス集会は次の通りです。

- \*メサイア讃美礼拝 12月22日(日)午前10時30分～正午
- \*キャンドル・サービス 24日(火)午後7時～8時30分
- \*オルガン・コンサート 24日(火)午後9時45分～10時45分

## サタデー・トーク

きき手 尾崎一夫

毎週土曜日放送

12月07日	BCLの日特集：「フレッシュ9時半キダタロウです」に出演
12月14日	BCLの日特集：故山田耕嗣先生出演のBCL番組をさく
12月21日	クリスマス特集：中田羽後著「父の涙」前編
12月28日	クリスマス特集：中田羽後著「父の涙」後編

## バイブル・トーク

東京淀橋教会 峯野龍弘主管牧師

毎週日曜日放送

12月08日	聖書の見所をたずねて：聖書遊覧バス（52）
12月15日	リスナーからの「お便り交換の時間」
12月22日	クリスマス・メッセージ
12月29日	年末メッセージ

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.hcjb.org>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

住所：HCJB日本語放送 5701 N. Indian Trail TUCSON AZ 85750 USA